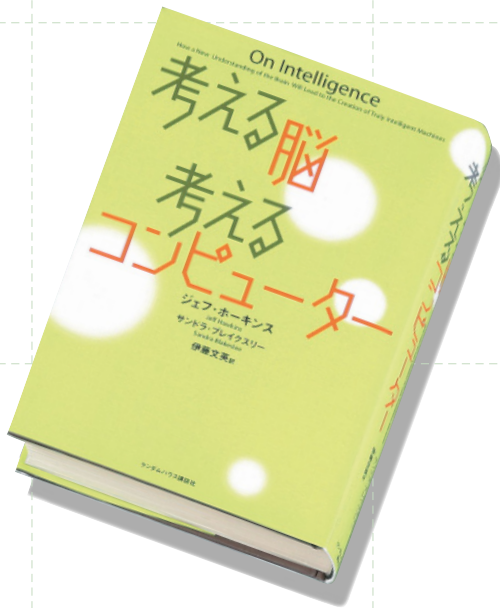


『考える脳 考えるコンピューター』



ジェフ・ホーキンス、サンドラ・ブレイクスリー 著
 伊藤 文英 訳
 ISBN : 4-270-00060-0
 1,900 円
 ランダムハウス講談社

Palm 開発者が描く脳科学の未来 真の知能を持つ機械の誕生はもう間もなくか

森山 和道(サイエンスライター)

著者のジェフ・ホーキンスはPalmの開発者として知られている。その彼が脳の本を書いた。「脳とPDA」とかインターフェイスとかそんな本ではない。頭から最後まで脳のアーキテクチャーを考察する本だ。彼はもともと脳科学や人工知能を研究したかったのだという。

現在ホーキンスは脳科学の細かい知見に囚われず、脳の本質的な機能を見きわめ、それに基づいて工学的なモノを作ろうとしている。では彼の考える脳、あるいは神経系の本質とはどんなものか。彼は、脳の働きの解明のためには、時間の概念、感覚とは逆方向に流れる情報の流れ、そして脳の構造の3つの要素が不可欠であると述べ、特に大脳新皮質に着目

する。彼によれば、大脳新皮質は記憶をもとにパターンのシーケンスを予測する領域だ。そしてそれが脳の行っている仕事の本質であると語り、それを脳の6層構造やコラムと呼ばれる構造に照らし合わせて解説している。

ふだん脳科学の本を読まない読者は面食らうかもしれないが、本書では詳細はほとんど説明されていない。だが行間や文章の端々から彼が脳科学の知見をふんだんに吸収して解釈していることがわかる。彼自身が認めるように、主張の細部は今後どんどん修正されていくだろう。だが本質的には正しいように思える。知性を備えた機械が登場する日は意外と近いのかもしれない。

『ハッカーと画家 コンピュータ時代の創造者たち』

ハッカー世界のガイドブックであると同時に 経験に基づく挑発的なベンチャー起業指南書

山川 健(ジャーナリスト)

ハッカーとは、優れたプログラマーの尊称であり、不正侵入を試みる輩のことではない。本書で言う「コンピュータに、良いことであれ悪いことであれ、自分のやりたいことをやらせることができる者」が正確な定義だろう。やや奇抜なタイトルは「ハッキングと絵を描くことにはたかさんの共通点がある」ことから付けられた。

ベンチャー企業を立ち上げ、米ヤフーに売却することで成功を収めた著者の示唆に富んだエッセイ集。「ハッカーの世界へのガイドブック」であり、「米国文化の理解にもつながる」と著者は言う。そのような面もちろん大きいですが、実際にはビジネス書の色彩が強く感じられた。挑発

的な内容にあふれたベンチャー起業指南書。根底に流れるのは、優秀なハッカーはベンチャーを作るべきだ、といった考えだ。

著者は、裕福になる最良の方法は「ベンチャー起業を起すか、それに参加するかだ」と断言する。そしてビジネスで知っておくべきことは「ユーザーが気に入るものを作ることと、使った金より多くの収入を得ること」と単純明快に解き明かし、「マイクロソフトだってあなたのできることはできない」と、勇気付ける。

著者の言葉からは、何か問題に直面したときに元気を与えてくれるような、そんなエネルギーも伝わってくる。



ポール・グレアム 著
 川合 史朗 監訳
 ISBN : 4-274-06597-9
 2,400 円
 オーム社

本でしか得られない知識がある。
今月の、お勧め、お役立ち、元気になる書籍。

『スカイプ 世界規模の電話代無料革命』



清成 啓次 著
石村 賢一 監修
ISBN : 4-7753-0368-6
1,600 円
新紀元社

130年の電話の歴史を覆すP2P電話の真実 革命的P2Pソフト「スカイプ」の全容に迫った一冊

増田 真樹(ジャーナリスト)

「KaZaA」はユーザーの絶賛とは裏腹に、全米レコード協会やメジャーレーベルから訴訟を受けた悲劇のP2Pファイル交換ソフトである。これを開発した人物がニコラス・センストロムである。

彼が「新しいP2Pソフトを作った」といって来日したとき、また、一騒動を起こすのかと正直いって戸惑った。しかし、開口一番彼がいったのは、もっと衝撃的な言葉だった。「私たちはインターネットを使った電話会社を興した。スカイプを使えばユーザー同士は世界中と無料で通話できる」すでにユーザーは2,900万人以上おり、さらに毎日15万5,000人ずつ増加している。

電話のシステムは、ユーザー数が増え

れば、ハブとなるサーバーの増強が必要になる。携帯電話はもちろん、既存のIP電話も同じ構造だ。しかし、スカイプの電話ソフトは、KaZaAと同じP2P技術が使われており、ユーザーが増えてもサーバーの増強の必要がない。同時に100万人のユーザーが通話しても設備投資の必要がない。さらに、スカイプは、全世界で国際電話・地域電話にもサポート、最大で通話料が100分の1になるし、留守番電話などのサービスも準備している。

もしこのスカイプに少しでも興味があるのなら、この本を手取るべきだ。スカイプがいかに衝撃的かをさらに深く理解できるだけでなく、あなた自身もスカイプ・フリークになれるのだから。

『アンワイアード』

真のモバイルインターネットを実現するための 4G(第四世代通信)へのロードマップを読み解く

塩田 紳二(フリーライター)

本書は、現在の3Gケータイの次の世代である4Gについて考察したものだ。4Gについてはまだ何も決まっておらず、立場によりいろいろと見解の相違がある。本書は、インターネット側の立場から4Gを「モバイルインターネット」の基盤として位置づける立場から書かれた本だ。

本書でも、現在の携帯電話インフラが4Gで使えることは否定していないが、ネットワークのIP化、無線LANなどの他の通信手段との併用が必須と考えている。

筆者らは、3Gはあくまでも通過点であり、4Gこそが本格的なモバイルインターネットのインフラであるとする。

1つのポイントは、本書が指摘するように3G携帯電話の周波数帯利用に各国政

府から課せられた「利用料金」にある。欧米では、3Gの周波数帯の利用権が競売にかけられ、利用料金が高騰。このために3G携帯事業の黒字化が遅れ、場合によっては普及しない可能性も出てきた。

もう一つは、3Gがあくまでも「通話」を前提とし、データ通信も可能としたコンセプトであること。将来的には、データ通信が主となり、音声通話は、その1アプリケーションに過ぎなくなるという予想から、3Gには力不足の面があるとする。

現状の3Gの世界的な動向や現在進行中のさまざまな4Gに向けた動きがまとめられてあり、日本の動向も詳しく記載されている。現状把握のための1冊としては適当と思われる。



アレックス・ライトマン 著
ウィリアム・ロージャス 協力
浦川 隆次 編
村井 純 監訳
ISBN : 4-8443-2079-3
2,400 円
インプレス



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp